

第2分科会「LD・ADHD」

新型コロナウイルス感染拡大防止のための休校における遠隔授業の取り組み  
～休校中の取り組みを今後の支援に生かすために～

熊本県熊本市立東町小学校 教諭 森川 義幸

はじめに

本校は、熊本市の東側に位置し、学級数17学級（特別支援学級4種6学級、通級指導教室2種4教室）児童数536人の中規模校である。特別支援学級児童数は25人（知的障害学級9人、自閉症・情緒障害学級に在籍の児童は13人、肢体不自由学級2人、病弱学級1人）である。

昨年度2月末からの新型コロナウイルス感染防止のための臨時休校以来、長期の休校が5月末まで続いた。感染症の世界的な流行に伴う子どもの環境や心身への影響については、まだ十分に予測がつかないのが現状だろう。熊本市ではタブレットによるオンライン授業を行い、休校中の子どもとの関わりを保ち、学びを止めないという取り組みを進めてきた。これは全国でも先駆的な取り組みであると言える。学校が再開され、子どもたちの学びにおいて効果的なICTの活用が模索されている中で、熊本市の休校中の特別支援学級の遠隔授業での取り組みをまとめ、紹介することは、今後第2波、第3波が来ることも予想される中で、今後の特別支援教育の推進する上で意義があると考えた。

熊本市のICT整備状況について簡単に述べる。熊本市は、2018年9月に教育ICTプロジェクトを開始し、熊本市教育委員会とNTT docomoの協定により、iPad(LTE通信対応)を2万3460台導入した。(熊本市がLTE版を選定した理由①各学校のネットワーク環境を整備しなくても良いため、②将来的に校外学習や各家庭に持ち帰り家庭学習に活かすことを視野に入れたため)タブレット端末の整備は、特別支援学級1人1台、通常学級3人に1台が令和元年に整備、令和元年度2月末からの臨時休校時には、整備されていたタブレットを6年生児童の各家庭に持ち帰らせて活用している。子どもたちは、主にドリルパークを使って、臨時休校中の学習を進めていた。

1 オンライン授業が始まるまでの準備

(1) 学校の取り組み

今年度が始まり、整備されていたipad(LTE)を各家庭に持ち帰らせ、オンライン授業の実施を全市で行った。3月末に各家庭に端末保有のアンケートを行い、貸し出し数を調整、各家庭に配備する端末数を把握した。本校は各家庭の所有状況から前半5・6年生、後半3・4年生に分け、2学年ずつ貸しを行った。学年始休業中に熊本市教育センターで、「遠隔授業準備のための臨時研修」も行われ、3人の教職員が参加した。研修会の中で、「休校期間中のスケジュール」や「休校中の1日の流れ」(表1)が示された。その内容を全職員で共有した。

表1「熊本市教育委員会が示した一日の流れの例」

小学校	3年	4年	5年	6年
9:00~	zoomでの健康観察 本日の課題提示			
9:20~		① zoomでの健康観察 本日の課題提示		
9:40~			zoomでの健康観察 本日の課題提示	
10:00~				zoomでの健康観察 本日の課題提示
14:00~	ロイロノートで課題提出	ロイロノートで課題提出	② ロイロノートで課題提出	ロイロノートで課題提出
15:00~	個別の対応	個別の対応	個別の対応	③ 個別の対応

① zoomでの健康観察  
本日の課題提示

・朝から健康観察を5分程度  
・2教科程度の課題提出を5分程度  
(教科書を読んでまとめる、問題集を解く、インターネットの学習サイトを利用する、など)

② ロイロノートで課題提出

・ロイロノートを使って、朝からの課題を提出する。  
・カードにまとめる、ノートを写真に撮る、動画を撮影するなど。

③ 個別の対応

・健康観察やロイロノートへの提出ができていない生徒への対応。

(2) 「学校で用意すべきこと」(研修資料「休校期間中の1日の流れ」より一部修正)

- ①ロイロノートに児童・生徒のクラス情報を入力する。
- ②児童・生徒のIDとパスワードを伝える。
- ③アンケートを集計し、タブレットを貸し出す児童・生徒を把握する。
- ④時間割と授業(課題)を考える。
- ⑤提出させた児童・生徒の学習物は評価のために残しておく。
- ⑥貸し出すまでの諸準備(充電器、端末の番号の確認、設定の変更)

4月10日(金)4月14日(月)の臨時登校日(授業日ではない)に3年生以上の児童(特別支援学級の児童も含む)は、「ロイロノート」、「Metamoji Classroom」「ZOOM」の設定と練習を2時間行った。

本校の特別支援学級(なかよし学級)の児童は25人いる。その中で4月14日にタブレットを貸し出した児童は5・6年生10人であった。児童10人分のタブレットの「ロイロノート」、「ZOOM」設定は、特別支援学級担任で行った。必要に応じて、ZOOMの使い方を保護者に直接伝えた。

2 特別支援学級の取り組みの概要

特別支援学級は一人一台整備されているため、特別支援学級(なかよし学級)の休校中のオンライン授業は、4月15日から5月21日まで22回行った。本校のオンライン授業の時間設定は、9時から5・3年生、10時から6・4年生、11時から支援学級のオンライン授業であった。特別支援学級の児童は、交流学級の授業に参加し、その後、なかよし学級の授業に参加することも多かった。(放課後等デイサービス等で受けていない児童もいた。)

表2 「オンライン授業開始時間」

	9:00	10:00	11:00～
4月15日～4月27日	5年生	6年生	支援学級
4月28日 登校日	タブレット受け渡し		
4月29日～5月9日	3年生	4年生	支援学級
※11日から23日まで延長	3年生	4年生	支援学級

表3 「オンライン授業を実施した時期と対象学年」

	通常学級	特別支援学級(なかよし学級)
4月15日～4月27日	5・6年生	5・6年生
4月28日 登校日	タブレット受け渡し	
4月29日～5月23日	3・4年生	3・4・5・6年生
(5月11日の週～5月22日)		1・2・3・4・5・6年生

※緊急事態宣言の延長を受け、熊本市の休校が5月末まで延長したため、5月11日の週に1・2年生の保護者に連絡し、タブレットを取りに来てもらい、1・2年生も参加し、特別支援学級の全ての児童が対象になった。

### 3 オンライン授業の実際

#### (1) 特別支援学級

今回の休校は年度の始めにあたり、担任が決まって間もない段階でのオンライン授業であった。休校中もオンラインの健康観察で毎日顔を合わせ、やりとりをすることで、新しい担任の先生と慣れることができた。健康観察では、「今朝食べた朝ごはん」や「休校中に作ったもの」等を発表する場にもなり、児童と児童をつないだり、児童を褒めたり価値付けたりすることができた。

##### ① ねらい

- 休校中の子どもたちとつながる、子どもたち同士をつなぐ
- 健康状態の確認
- 体を動かす時間の確保

##### ② 体を動かそう

休校中に運動をする機会が減ることが心配だったので毎日「体を動かそう」を設定して「ラジオ体操」や「ダンス」を行った。児童の様子を見ながら、学習を進めるために子どもたちの画面を電子黒板に映した。

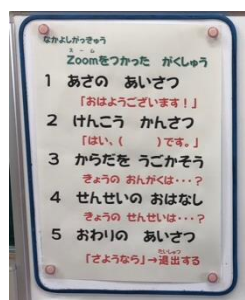


図1 「学習の流れ」

図2 「体を動かそう」の様子

##### ③ 先生のお話

特別支援学級の担任7人で輪番で3回ずつ取り組んだ。「今日はどの先生かな。」と楽しみにしていた児童もいた。内容は、「新しい先生のクイズ」や「手の洗い方の練習」、「コロナウィルスについて」、「家庭でお世話しているもの」、「家庭でのお手伝い」、「外国語活動」、季節を感じる生活科や理科的な内容のもの、ビジョントレーニング、なぞなぞ、マジックなど様々だった。



図3 「プランターの田植え」

#### (2) 通常学級での「交流及び共同学習」の様子

特別支援学級の児童も交流学級のオンライン授業に参加した。交流学級の担任が授業を進め、特別支援学級の担任もサポートに入った。交流学級の友達と一緒にオンラインで教科の学習を進めたり、教師の課題を聞いてその日の課題に取り組んだりできた。

「今年度の目標」をロイロノートでまとめ、発表したり、担任に提出したりする姿が見られた。休校中のプリントの課題もできたものから、写真に写して、教師のタブレットに提出することで課題にコメントが返って来ることで児童の意欲が高まった。また、ロイロノートでは、文字や写真だけでなく音声や動画も提出することができることを活用し、「ハウセンカの観察シート」や絵日記、物語文の音読、習字などの取り組んだ課題を提出期限までに教師用のタブレットの「提出箱」に提出するようにした。担任はコメントを返したり、全体で紹介したりするなど双方向のやりとりができた。オンライン授業で新しい交流学級の担任と関わることで学校再開後も教室に行くことがスムーズになった。



図4 「教師用タブレットの提出箱」

(3) 通級指導教室（ひがしまち教室）の取り組み

情緒通級指導教室では、保護者にアンケートを実施した。

「休校中、心配なこと当てはまるものを選んでください」（複数回答可）
「運動不足である」60% 「ゲームやYouTubeばかり」40% 「生活リズムが乱れがち」40%

この結果を踏まえ、希望者を募り以下のような内容で遠隔授業を計画した。（表4）

内容	自立活動	1 健康の保持	(1) 生活のリズムや生活習慣の形成に関すること (5) 健康状態の維持改善に関すること
		2 心理的な安定	(1) 情緒の安定に関すること
		6 コミュニケーション	(1) コミュニケーションの基礎的能力に関すること

表4 「臨時休校中のひがしまち教室支援計画」5月13日～29日（月・水・金）8回

時間	内容
13:50	ZOOM ミーティングの参加、健康観察（出席者の確認）
14:00	今日の内容について説明、お話タイム
14:05	簡単タオルストレッチ、目の体操
14:10	活動①生活の振り返り（ロイロノートのスライドを使用） ・Net モラル ・気分転換の方法 ・「ありがとう」を伝えよう ・英語でパブリカを踊ろう ・1学期にやりたいことについて話そう
14:20	活動②エクササイズ（YouTube より） ・簡単リズムエクササイズ ・がんばろうエクササイズ ・その他
14:40	今日のまとめ（感想の交流）

4 成果と課題

- ・子どもたちの心身の健康状態の把握や家庭での生活を知ることができた。子どもたちの生活リズムを整えることには効果があった。
- ・子ども同士、子どもと担任をつなぐという目的は達せられたように思う。保護者も子どもと一緒に遠隔授業を楽しみにされていた。保護者の感想の中に「家族間での話題になってよかった」、「子どもと関わるきっかけになってよかった」等の感想があった。
- ・休校が長くなれば、運動ができない期間も長くなってしまう。特別支援学級でも、通級指導教室でも、体を動かす活動に多くの子どもが笑顔で取り組む姿が見られた。普段学校で踊っているダンスや運動のバリエーションを増やしておくことが大切である。
- ・保護者に、家の中が映り込むことがあること、バーチャル背景の方法について知らせておくことが必要である。
- ・音声途切れることがあるので、説明は見て分かるようにしておくことに配慮が必要である。
- ・ミュートを解除して発言した後、ミュートを解除したままになっていた児童がいたことで、生活音を拾ってしまい、オンライン授業の内容に集中できないことがあった。聴覚過敏のある子どもたちへの配慮が必要である。
- ・熊本市は、一人1台のタブレット配置を今年度（1月31日まで）に行うことを決めている。第2波・第3波が来ることを想定して、さらに、ICTの活用を進め、臨時休校下でも遠隔授業のなかで一人一人のニーズに合わせて個別の学習ができるようにさらに準備を進めていきたい。